

# 全国花き種苗審査会ストック（冬出し・スタンダード系）について

## 1 新しい品種の内容

### (1) 背景・目的

ストックは本県の切り花品目で最も作付面積が多く、生産額は全国第3位、西日本では最大の産地となっている。

近年は気象の不安定さから生産量や品質の安定しない状況も見られているが、特徴的な新品種が次々と育成されており、早期に品種の特性把握を行い、適品種を選定して他県に先駆けて栽培することで、生産安定や有利販売、所得向上につながると考えられる。

そこで、(一社)日本種苗協会が主催する全日本花卉品種審査会を実施し、その結果をまとめたので、品種選定の参考としていただきたい。

### (2) 審査の要約

- 1) 1等特の‘KSST-CH’は花色が桃色の鑑別品種。対照のアイアンホワイトと比較し、切り花長は同等、花穂の詰まりは同等かやや密、茎の硬さは同等。
- 2) 2等の‘258-N-CH’は花色が桃色の鑑別品種。対照と比較し、切り花長は長、花穂の詰まりは同等かやや粗、茎の硬さは軟。花穂の先端が少し伸びやすいが、花径は大きい。
- 3) 同じく2等の‘KSST-HDWH’は花色が純白の無鑑別品種。対照と比較し、切り花長は同等かやや短、花穂の詰まりは密、茎の硬さは同等かやや軟。
- 4) 3等の‘KSST-MINP’は花色が青紫色の鑑別品種。対照と比較し切り花長は同等かやや長、花穂の詰まりは同等かやや粗、茎の硬さは同等。
- 5) 同じく3等の‘ES-581’は花色が白色の無鑑別品種。切り花長は同等かやや短、花穂の詰まりは密、茎の硬さは同等かやや軟。

## 2 試験成果の概要

- (1) 2018年8月17日に12品種(鑑別種6品種、無鑑別種6品種)を直播した。株間12cm、条間12~16cmの変則7条植えとし、1区1.8m<sup>2</sup>(105株)の2反復とした。8月17日から28日は50%遮光の二重がけを、8月28日から9月6日は50%遮光を行った。
- (2) 基肥は1aあたり堆肥300kg、重焼燐10kg、セルカ2号10kg、ミネラル宝素20kg、らくまる10kg施用した(N:P:K=7.4:14.2:10.0kg/a)。追肥は適宜トミー液肥(グリーン)を500倍、300L/a/回で行った。
- (3) 23℃恒温器内シャーレでの播種後7日目の発芽率、および23℃設定の冷房ハウス内での288穴プラグトレイにおける播種10日目の発芽率は全品種80%を上回った。
- (4) 播種後2週間は平年より気温が高かったが、そのほかの時期は平年並みだった。9月の日照時間は平年の6割程度だった。11月下旬には全品種が開花した。審査会は12月7日に行われ、5品種が入賞した(表1、表2、図1)。

表1 入賞品種一覧

等級	平均点*	品種名	出品者	鑑別/無鑑別
1等特	83.38	KSST-CH	(株)クロカワストック	鑑別
2等	82.00	258-N-CH	(株)クロカワストック	鑑別
2等	81.50	KSST-HDWH	(株)クロカワストック	無鑑別
3等	80.50	KSST-MINP	(株)クロカワストック	鑑別
3等	79.25	ES-581	タキイ種苗(株)	無鑑別

\*平均点:品種審査会における審査員10人の平均点

表2 発芽率および開花状況

品種	発芽率(%)		開花日(月/日) <sup>*3</sup>		
	23℃シャーレ内 <sup>*1</sup>	セルトレイ <sup>*2</sup>	始め	60%	90%
KSST-CH	97.0	96.2	11/9	11/21	12/5
258-N-CH	96.0	91.7	11/7	11/16	12/5
KSST-HDWH	98.0	97.7	11/5	11/16	12/5
KSST-MINP	100	97.2	11/5	11/19	12/2
ES-581	99.0	100	11/5	11/12	11/21

<sup>\*1</sup>9 cmシャーレに50粒播種(2反復)し、恒温器で23℃、12時間日長管理、播種後7日目に調査

<sup>\*2</sup>288穴白セルトレイ内に鑑別種288粒、無鑑別種132粒を1穴1粒ずつ落とし、播種後10日目に調査

<sup>\*3</sup>4輪開花時を開花日とした



第1図 受賞品種の草姿 \*撮影：(各品種右切り花) 12月26日

### 3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象 県内全域

(2) 注意事項

- 1) 1等特 KSST-CH はアーリーアイアンチェリーとして既に市販されており、その他の品種についても今後販売される見込である。
- 2) 主流のアイアン系品種に準じた栽培の結果であり、茎が柔らかい品種や花穂が間延びしやすい品種では、高温時の換気や高畝などの排水対策を十分に行う。

### 4 試験担当者

〔 花き研究室 研究員 荻原恭平  
主任研究員 池田規子\* 〕

\*現 東伯農業改良普及所副主幹